

# 九州における次世代ヘルスケアビジネス

山口 伸治・中川 敬基

## はじめに

わが国では、2025年に国民の3人に1人が65歳以上となる、いわゆる「2025年問題」への対応が急務となっている。そのようななか、ヘルスケアの領域では、IoTやビッグデータ、AIを活用することで生み出される新たな価値や仕組みを通じて、「健康寿命の延伸」や世界に先駆けた「生涯現役社会」を実現することが期待されている。しかし、ヘルスケアは、ビジネスとしての収益化や地域実証・実践の推進などにおいて課題も多い。そこで本稿では、九州経済産業局が発表した「九州地域における次世代ヘルスケア戦略に関する報告書～Society 5.0時代における九州ヘルスケア産業の展望～」を基に、2025年問題を見据えた現状や課題を整理し、九州地域における次世代ヘルスケア産業の今後の方向性や展望を考察する<sup>1)</sup>。

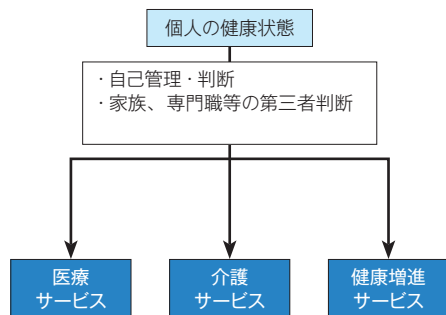
## 1 第4次産業革命とヘルスケアビジネス

### 健康寿命延伸による健康長寿社会の達成

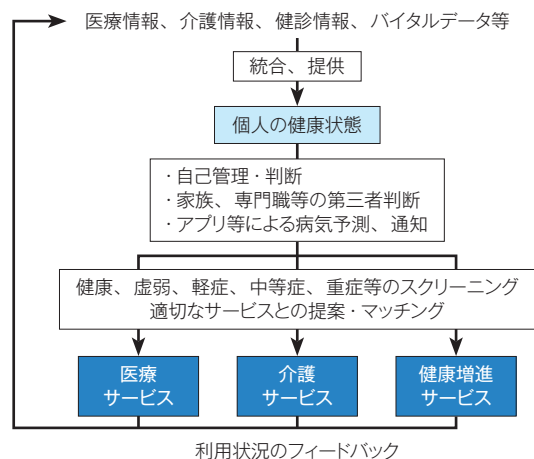
日本の総人口は2015年以降、減少局面に突入し、高齢化率が急速に高まっている。労働力の減少に伴う経済活動への影響が懸念されるとともに、社会保障費の急増による財源の確保が危ぶまれている。このようななか、2017年6月に国が発表した「未来投資戦略2017」では、わが国の政策資源を集中投入し、未来投資を促進する5つの分野が選定されており、その1つが「健康寿命の延伸」である。全省庁が横断的に当該分野への取り組みを進めるなか、経済産業省では、誰もが人生を最後まで幸せに生きることができる「健康長寿社会」を実現するため、国民生活の向上につながるヘルスケア産業の育成を政策の基本理念として掲げており、さまざまな施策を戦略的に進めている。

図1 次世代ヘルスケアのサービス

#### ▼従来のヘルスケア産業のサービスフロー



#### ▼次世代ヘルスケア産業のサービスフロー



資料）九州経済産業局「Society 5.0時代における九州ヘルスケア産業の展望」（2018年2月）

1) 本稿は、九州経済産業局が実施した「平成29年度九州地域ものづくり中小企業事業化支援事業（技術開発戦略策定）」の成果として発表された「九州地域における次世代ヘルスケア戦略に関する報告書～Society 5.0時代における九州ヘルスケア産業の展望～」(以下、「Society 5.0時代における九州ヘルスケア産業の展望」)を一部抜粋したものである